ToneChimes

HB-250 / HB-120A / HB-120B / HB-7C / HB-160 / HB-100

取 扱 説 明 書
Handling Instruction

このたびはスズキ･トーンチャイムをお買い求めいただきまして、
誠にありがとうございます。
本製品を末永く､そして安全にご使用いただくため､
この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった取扱説明書は大切に保管してください。

We would like to thank you for purchasing the Suzuki ToneChimes.
For your safety and long term use of the Tone Chimes, please read the
page12&13 and follow the Handling Instruction.

目次

※最終ページに保証書を添付しています。

使用上のご注意

■ケースの開け方

ケースに表示しているSUZUKIの商標のある側を上にした状態で開けてください。上下を逆にして開けた場合、トーンチャイムがケースから落ちてしまいますのでご注意ください。

■手や指などを挟まないでください。

ケースの開閉時には手や指などを挟まないように充分ご注意ください。

■演奏時には周囲に気を付けてください。

トーンチャイムは前方に振り出して演奏します。トーンチャイムを人やものにぶつけないよう周囲に気をつけて演奏してください。

■衝撃を与えないでください。

本製品をぶつけたり落としたりすると衝撃によって音程が狂ったり音色が劣化することがあります。

■不安定な場所に置かないでください。

本製品を不安定な場所に保管しないでください。落下などをして思わぬケガをする恐れがあります。

■熱くなる場所での使用・保管は避けてください。

自動車の中や暖房器具のすぐ近くなど、極端に熱くなる場所での使用・保管はしないでください。本製品を痛める原因となります。

■水分や湿度の多い場所での使用・保管はしないでください。

製品を痛める原因となります。

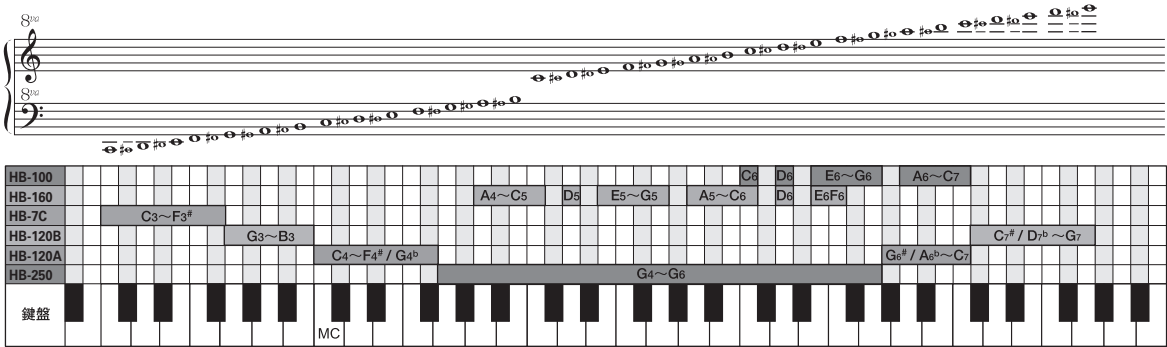
■研磨剤・シンナー・ベンジン等は使用しないでください。

お手入れは柔らかい布でカラ拭きしてください。研磨剤・シンナー・ベンジン等は製品を痛めますので絶対に使用しないでください。

仕様・音域表

トーンチャイムは6セットの展開をしており、4オクターブ半の音域をカバーしています。
各セットの品番と内容を下に記します。

品番/音域	特長	ケース外寸(幅×奥行×高さ)	重量	付属品
HB-250 G_4〜G_6	トーンチャイム全音域4オクターブ半のうち、中心となる2オクターブ25音のセットです。 トーンチャイムの導入から初級、中級まで多くの曲を演奏できます。	89×8×37cm	8.2kg	ケース 六角棒スパナ×3 ヘッドフェルト(厚)×5 ヘッドフェルト(薄)×5
HB-120A C_4〜$F_4^{\#}$・$G_6^{\#}$〜C_7	HB-250にプラスして、音域を上下に広げる12音セットです。 HB-250とHB-120Aで3オクターブをカバーします。	54×11×39cm	6.6kg	ケース
HB-120B G_3〜B_3・$C_7^{\#}$〜G_7	HB-250、HB-120Aにプラスして、音域を上下に広げる12音セットです。 HB-250、HB-120A、HB-120Bで4オクターブをカバーします。トーンチャイムの中で最高音を含むセットです。	70×12×35cm	7.9kg	ケース
HB-7C C_3〜$F_3^{\#}$	HB-250、HB-120A、HB-120Bにプラスして、低音側に音域を広げる7音セットです。 トーンチャイムの中で最低音を含むセットです。	98.5×12.5×51cm	16.5kg	ケース 六角棒スパナ×3
HB-160 A_4〜F_6・B_4^{b}・$F_5^{\#}$・B_5^{b}	幹音13音、派生音3音の16音セットです。1オクターブ程の簡単な演奏などに最適です。	58×8×37cm	5.3kg	ケース 六角棒スパナ×1
HB-100 C_6〜C_7・$F_6^{\#}$・B_6^{b}	幹音8音、派生音2音の10音セットです。トーンチャイムを使った音あそびなどに最適です。	34×8×28cm	2.5kg	ケース 六角棒スパナ×1

※上記セットの他、単音でもご購入いただけます。本製品お買い上げ販売店へお問い合わせください。

トーンチャイムの音域を五線譜で表示すると上図のようになります。本取扱説明書では、以後掲載するトーンチャイムの楽譜において、音部記号の上に記す「8va」の記号は省略します。またトーンチャイムの本体に記してある五線譜の表示においても同記号は省略されています。

各部の名称とはたらき

1 本体
本体上部（フォーク部）にヘッドが当たることで発音します。本体の下部を握って演奏します。

2 フォーク部
スリットの上下が同時に振動する音響損失の少ない設計です。

3 ヘッド
アームが振れるとヘッドがフォーク部に当たり発音します。

4 六角ジョイント
ヘッドとアームをつないでいます。

5 アーム（音によりビニールチューブ付）
トーンチャイムを振ったときに動作します。アームが振れるとヘッドがフォーク部に当たります。

6 クッションバンパー
アームが振れる時に、ヘッドよりも先にクッションバンパーが本体に当たるため、ヘッドが本体を抑えることなく伸びのある音を出します。

7 音名プレート
トーンチャイムの音名を表記していますが、五線譜が示す音は実音より1オクターブ低い表記となっています。

8 マウント
アームを本体に固定している部品です。アームの動きが重かったり軽かったりするときには、マウント下部の「押しネジ」を調整します。

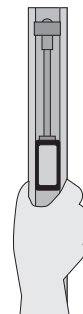
9 クラッパー
3 〜 8 までを総称してクラッパーと呼びます。

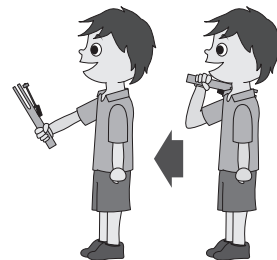
10 プラグ
閉管にするための機構です。共鳴効果を出しています。

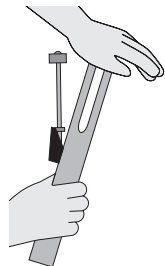
鳴らしてみましょう

演奏上の注意	クラッパーの動作部を手で必要以上に強く曲げたり引っ張ったりすると、動作が悪くなったりアームが破損することがあります。

持ち方

五本の指で本体をしっかりと握ってください。

鳴らし方

図のように手首を少し後ろ向きに折りながら構え、発音するときはその手首をまっすぐに伸ばしながら腕を前方に押し出します。力を入れず、音を響かせるという感じで演奏すると良いでしょう。発音後は腕を元の位置に戻し、次の発音の姿勢に入ります。

音の止め方

発音後、トーンチャイムの先端を胸や肩に付けたり、手で握ったりすると音が止まります。また机の上にタオルを敷きトーンチャイムの先端をタオルに当てて止めても良いでしょう。

お手入れの仕方

演奏のあとはトーンチャイムを柔らかい布でカラ拭きし、ケースにしまって収納してください。

【汚れがひどい場合】
水で湿らせた布をかたく絞って拭いた後、カラ拭きしてください。

【汚れがなかなか落ちない場合】
薄めた食器用洗剤で湿らせた布で拭いた後水拭きし、完全に洗剤成分を取り除いてください。そのあとカラ拭きしてください。

演奏しましょう

メロディーを演奏しましょう（1）

鳴らし方が分かったところで、さっそく演奏してみましょう。
ここでは「きらきら星」の楽譜を取り上げます。（右ページ）
この曲のメロディーには「ド／C5・レ／D5・ミ／E5・ファ／F5・ソ／G5・ラ／A5」の6音が使用されています。

用意するもの	トーンチャイムHB-250の中から「C5・D5・E5・F5・G5・A5」の6音 人数分の楽譜／机／机に敷く布（タオルなど）／ピアノ

1人1音を担当するので6人、指揮者1人、伴奏（ピアノ）1人の8人で演奏してみましょう。

1 1人1部ずつ楽譜を用意し、音の担当を決めます。
楽譜を見て誰がどの音を担当するか割り当てます。音を割り当てることを「ベル割り」と言います。

2 楽譜で自分の担当する音を確認します。
楽譜の中で、どのタイミングで自分の担当する音が出てくるか確認しておきます。

3 トーンチャイムを演奏しましょう。
指揮者が演奏者に発音の合図を送り、演奏者は拍をとりながら自分の担当音を発音しましょう。

メロディーを演奏しましょう（2）

慣れたら人数を減らして、1人2音を担当して3人で演奏してみましょう。ほかのメンバーは他の楽器で伴奏を担当するとより充実した演奏になります。ここではベル割りの例を2つあげますが方法は様々です。メンバーで話し合って決めていきましょう。
演奏の仕方は「メロディーを演奏しましょう（1）」と同じです。

ベル割り例 1

メロディーが順次進行の形をとっているときに良いでしょう。

ベル割り例 2

和音を演奏するときに良いでしょう。

きらきら星

フランス民謡

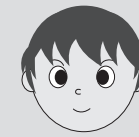
和音を演奏しましょう（1）

メロディーを演奏できるようになりましたら和音に挑戦してみましょう。
ここでは「聖夜」の楽譜を取り上げます（右ページ）。
この曲に使用する和音（コード）はC･F･G7で各和音の構成音は下の通りです。

Cの和音

C_5 E_5 G_5 C_6

用意するもの	トーンチャイムHB-250の中から「G_4･C_5･D_5･E_5･F_5･G_5･A_5･B_5･C_6･D_6」の10音 人数分の楽譜／机／机に敷く布（タオルなど）／メロディオン又はリコーダー1本

構成音を1人2音または1音を担当して6人で3つの和音を演奏、指揮者1人、旋律（メロディオンなど）1人の合計8人で演奏します。和音を構成している音の担当者が全員同時にタイミング良く音を鳴らすことが大切です。

1 ベル割りをします。

Aさん C_5
Bさん E_5 B_5
Cさん C_6
Dさん G_4 F_5
Eさん D_5 A_5
Fさん G_5 D_6

2 楽譜で自分の担当する音を確認します。
楽譜の中で、どのタイミングで自分の担当する音が出てくるか確認しておきます。

3 トーンチャイムを演奏しましょう。
指揮者が演奏者に発音の合図を送り、演奏者は拍をとりながら自分の担当音を発音します。

聖　夜

上段のメロディーパートはメロディオンやリコーダーだけでなく他の楽器でも演奏できます。
HB-250をもう1セット用意して、メロディパートをトーンチャイムで演奏しても良いでしょう。

和音を演奏しましょう（2）

和音演奏のもう1つのやり方に「分散和音」（アルペジオ）というものがあります。例えばC（C_5·E_5·G_5·C_6）の和音の場合、その和音を構成している全ての音を同時に鳴らさないで、1つずつつなげて鳴らす方法のことです。「聖夜」の楽譜を使って挑戦してみましょう。P7を参考に、ベル割りにも挑戦してみましょう。
スズキ低音オルガン「バスマスター」等でベース音を追加すると、より充実したアンサンブルになるでしょう。

おかしいな？と思ったら

楽器の調整、修理はご自分で出来るものもあります。下記を参考にして下さい。
また、部品や単音のご購入も可能です。本製品お買い上げ販売店へお問い合わせください。

症　状		原　因	処　置	処置詳細
打撃音がおかしい（打撃音をなくすことは出来ません）	カチャッという感じ	ヘッドの取付けネジが緩んでいる	ドライバーでヘッドの取付けネジを締める	A
		六角ジョイントの押しネジが緩んでいる	六角棒スパナで六角ジョイントの押しネジをしっかり締める	B
	ドンという感じが強い	ヘッドが劣化により硬化している（フエルト又はゴム）	ヘッドを交換する（修理依頼）	―
	ガタツキ感がある	クラッパーの動きが緩くなっている	六角棒スパナでマウント下部の押しネジを締める（左右均等に少しずつ調整）	C
音色がおかしい（伸びている音）（不協音を完全になくすことは出来ません）	チリチリした感じでフラットしている	本体が金属疲労により破損している	本体を交換する（修理依頼）	―
	不協音が多い	打撃点が本体の中心線上から外れている	アームを右、又は左に曲げて、本体中心線上にヘッドが接触するようにする	D
		クラッパーの動きが緩くなっている	六角棒スパナでマウント下部の押しネジを締める（左右均等に少しずつ調整）	C
		ヘッドが劣化により硬化している（フエルト又はゴム）	ヘッドを交換する（修理依頼）	―
音の伸びが短い		ヘッドと本体の間に隙間が無い	アームを上へ曲げて適当な隙間を設ける	E
		プラグ（本体内を塞ぐ詰めもの）の位置がずれてしまった	プラグの位置を元に戻す	F
		楽器の温度が極端に低い／高い	常温（10～30℃）に戻してから演奏する	―
		クッションバンパーが上下逆さまになっている	本体側が厚くなるようにクッションバンパーの上下関係を直す	G
音量が小さい		プラグ（本体内を塞ぐ詰めもの）の位置がずれてしまった。	プラグの位置を元に戻す	F
		楽器の温度が極端に低い／高い	常温（10～30℃）に戻してから演奏する	―
音の高さが完全にフラットしている		本体が金属疲労により破損している	本体を交換する（修理依頼）	―
弱い音が出にくい		ヘッドと本体の隙間が大きい	アームを下へ曲げて隙間を調節する	E
		クラッパーの動きが重くなっている	六角棒スパナでマウント下部の押しネジを緩める（左右均等に少しずつ調整）	C

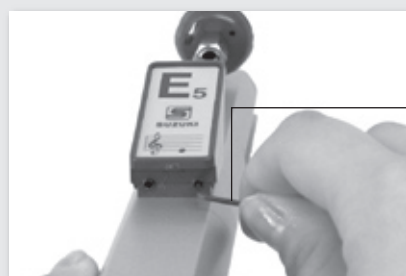
処置詳細

A

別売のドライバー（No.2）でヘッドの取付けネジを締める。

B

六角棒スパナで六角ジョイントの押しネジをしっかり締める。

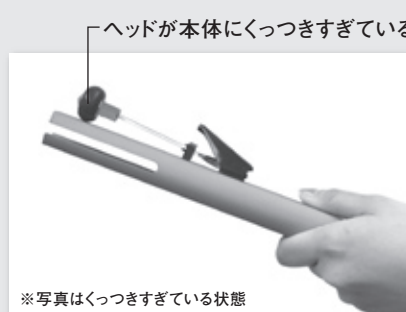
C

六角棒スパナ

六角棒スパナでマウント下部の押しネジを締める、又は緩める。
※左右均等に少しずつ調整してください。

D

少し左に寄っている

アームを手で右、又は左に曲げて、本体中心線上にヘッドが接触するようにする。

E

ヘッドが本体にくっつきすぎている、又は空きすぎている。

※写真はくっつきすぎている状態

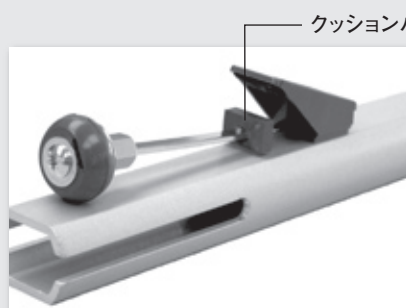
※必要以上に力を加えないよう注意してください。

正常位置(前後の音階を比較し、音量バランスの良い位置)

アームを手で上又は下に曲げてヘッドを正常位置に戻す。

F

棒などを使ってプラグの位置を正常位置(前後の音階を比較し、音量バランスの良い位置)に戻す。

G

クッションバンパーの上下関係が逆になっている

正しい向きに戻す。
(厚い方が下)

HB-250 25 note chromatic ToneChime handbell set with case. Range G_4 to G_6

HB-120A 12 note chromatic add-on set with case. Range C_4 to $F^{\#}_4$ and $G^{\#}_6$ to C_7. Use to expand range of HB-250 to three octaves.

HB-120B 12 note chromatic add-on with case. Range G_3 to B_3 and $C^{\#}_7$ to G_7. Use to expand range of HB-250 and HB-120A to four octaves or with any handbell or chime set.

HB-7C 7 note chromatic add-on with case. Range C_3 to $F^{\#}_3$. Use to expand range of HB-250 , HB-120A and HB-120B to the low end of five octaves or with any handbell or chime set.

HB-160 16 note diatonic set with $F^{\#}$ and 2 B^{b}s, and carrying case. Range A_4 to F_6 Use in combination with Orff instrumentariums for dynamic performances.

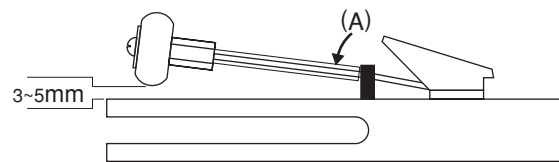
HB-100 10 note diatonic set, with B^{b} and $F^{\#}$, and carrying case. Range C_6 to C_7. Use for elementary classroom instruction.

The following instructions explain how to adjust the ToneChime to obtain the tone and sound that you like best. After reading the instructions carefully it is simple, even for a complete novice, to correctly adjust the ToneChime.

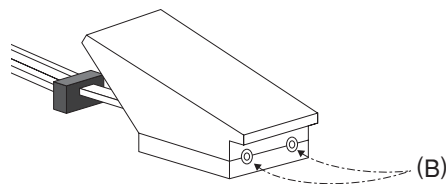
A. SPECIAL PARTS & TOOLS

The special tools and parts provided are not generally available, so be careful not to lose them.

	HB-250	HB-120A	HB-120B	HB-7C	HB-160	HB-100
Allen Wrench	3	–	–	3	1	1
Head Felt	5	–	–	–	–	–

B. IF THE CLAPPER FAILS TO FULLY HIT THE CHIME BODY, IT'S CAUSED BY ONE OF THE FOLLOWING:

1. The head is not striking the chime pipe in the middle.
2. The gap between the pipe body and the head is incorrect. (The gap should be 3~5mm. as shown in the drawing.)

Make the required adjustment by bending the clapper bar at position (A).

C. IF THE HAMMER MOVEMENT BECOMES TOO TIGHT:

Hammer movement should have an appropriate resistance. After long use hammer movement might be too tight and hard to produce soft sound. In such a case, use the provided Allen wrench and adjust the hammer movement by loosening the socket screws marked as (B) in the drawing on the left.